

## 新技術（CBTC）の導入について

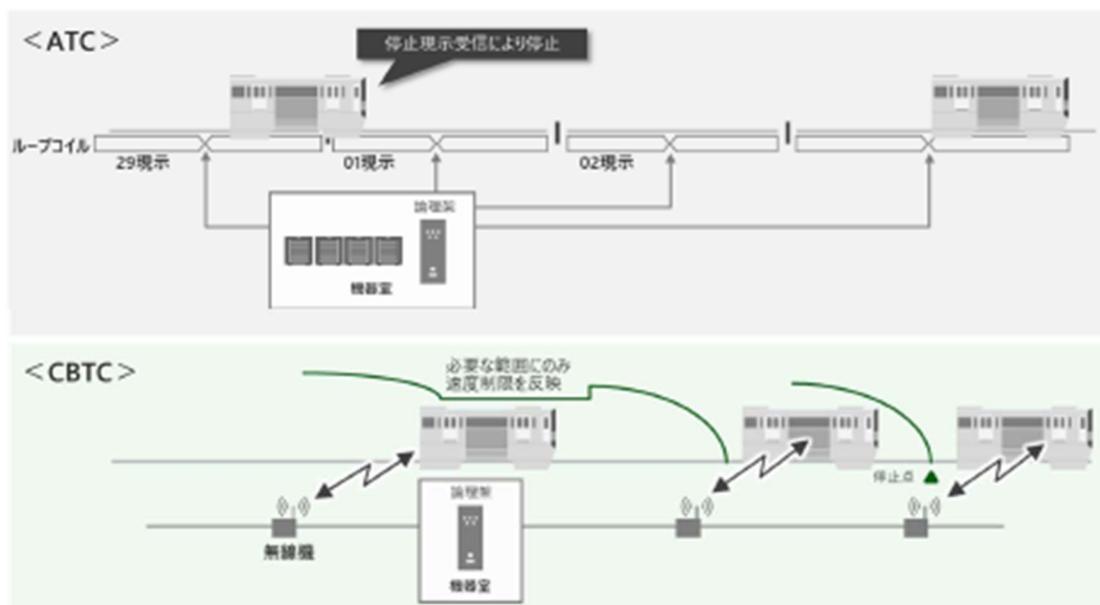
設備の更新については、コスト面だけでなく、環境負荷の低減や効率の良い運行体制の構築などを目標に、新しい技術を積極的に取り入れていくこととしております。

今回、そのひとつである無線式列車制御システム（CBTC）の採用について、技術的な安全性の評価を終え、導入に向けての一步を踏み出しました。

CBTCの導入については、国内モノレールでは初の事例であり、本年12月7日に東京地下鉄株式会社様（東京メトロ丸ノ内線）において、日本の地下鉄で初めて使用開始されています。

当社従来のシステムである自動列車制御装置（ATC）が有線の電気信号により制御するのに対し、CBTCでは無線通信での情報信号により列車制御を行います。これにより、設備のスリム化やメンテナンス費用の削減が図られることになるほか、より効率的な列車運行が可能となるため、小倉⇄企救丘間の所要時間の短縮など、お客さまサービスの向上につながることも期待されます。

今後も各種更新にあたり、同様のチャレンジを行いながら、お客さまに「安全」「正確」「快適」「安心」をご提供できるよう努めてまいります。



※モノレールにおけるATC（Automatic Train Control）は、柵に設置されたループコイルを介して地上から車上に信号現示を送り列車制御を実施します。他方、CBTC（Communication-Based Train Control）は、駅舎と列車に設置された無線機を用いて地上と車上との双方向通信により列車制御を実施します。具体的には、地上装置が先行列車の位置などから後続列車が走行可能な位置を算出し、無線により後続列車に伝え、後続列車は自ら走行可能な速度を計算して運行制御するシステムです。